

## 野洲市資料提供

提供年月日	令和2年4月27日
担当部課	教育委員会文化財保護課
担当者	進藤 武
連絡先電話番号	077-589-6436

### 野洲市指定文化財の指定について

野洲市文化財保護審議会の答申に基づき、令和2年4月22日付にて、下記文化財を野洲市指定文化財に指定します。

このことにより、野洲市の市指定文化財は計73件となります。

#### 記

#### 有形文化財 工芸

名称 くろうるしこんどうそうしんよ 黒漆金銅装神輿（大宮神輿・若宮神輿・じゅうぜんじ十禅師神輿）

員数 3基

時代 室町時代 寶徳二年（1450）

所有者 宗教法人御上神社

名称 くようもんあじろはりくろうるししんよ 九曜文網代張黒漆神輿

員数 1基

時代 室町時代前期（14～15世紀）

所有者 宗教法人兵主神社

附 しとね 1帖

#### 有形文化財 建造物 附 【追加指定】

名称 兵主神社本殿 附 ししこ獅子口

員数 1対

時代 明和8年（1771）卯月

所有者 宗教法人兵主神社

## 有形文化財 工芸

名 称	員数	所有者	所有者の住所	所在地
黒漆金銅装神輿 (大宮神輿・若宮神輿・十禅師神輿)	3基	宗教法人 御上神社	野洲市三上 838	同左

**法 量** 大宮神輿 総高 215.2cm 本体高 183.1cm 屋根幅 141.8cm 総長 401.8cm  
 若宮神輿 総高 198.9cm 本体高 172.8cm 屋根幅 129.0cm 総長 365.6cm  
 十禅師神輿 総高 197.4cm 本体高 173.1cm 屋根幅 129.0cm 総長 387.0cm

**時 代** 室町時代 寶徳二年（1450）卯月

**説 明** 3基の神輿は、御上神社春祭りの祭礼渡御に用いられていたもので、宝形造の屋根に鳳凰を戴く黒漆金銅装の鳳輦神輿。大宮神輿がやや大きく、若宮神輿・十禅師神輿は形状・法量がほぼ一致する。若宮神輿と十禅師神輿の台框裏面には寶徳二年（1450）卯月日の墨書銘があり、3基とも室町時代前期の製作とみられる。江戸時代初期（1620年代）に外観を金銅装に整える修復が行われているが、室町時代前期の神輿がそのままに遺され、県下でもきわめて希少なものとして市の文化財に指定するものである。

## 有形文化財 工芸

名 称	員数	所有者	所有者の住所	所在地
九曜文網代張黒漆神輿 附 しとね	1基 1帖	宗教法人 兵主神社	野洲市五条 566	同左

**法 量** 総高 118.7cm 本体高 97.2cm 屋蓋幅 84.6cm 総長 139.5cm

**時 代** 室町時代前期（14～15世紀）

**説 明** 兵主神社の遷宮や特別な祭事に用いられた網代張神輿。装飾の基調である網代は幅約 2.5mmの薄い竹材を編み、縦方向のみ黒色に着色して九曜文を編み出す。本例は、室町時代の定型化した神輿とは系譜を異にし、南北朝時代に遡る可能性を含む室町時代前期（14～15世紀）と考えられる希少な作例で、中世兵主神社の祭儀・信仰に深く関わるものとして指定するものである。また神輿に伴う寶暦 9年（1759）銘の「しとね」を附とする。

## 有形文化財 建造物 附

名 称	員数	所有者	所有者の住所	所在地
兵主神社本殿 附 獅子口	1対	宗教法人 兵主神社	野洲市五条 566	同左

**法 量** 本体高 61.0cm 本体幅 75.0cm 奥行 33.0cm 鰭付

**時 代** 明和 8年（1771）卯月

**説 明** 寛永 20年（1643）造営の兵主神社本殿棟積瓦の両端を飾る獅子口。兵主神社本殿保存修理の際に、獅子口の刻銘から製作者と明和 8年の製作年代が判明した。修理では新たな獅子口を設置し、本例は本殿の附として保存を図るものである。

黒漆金銅装神輿（御上神社）



大宮神輿

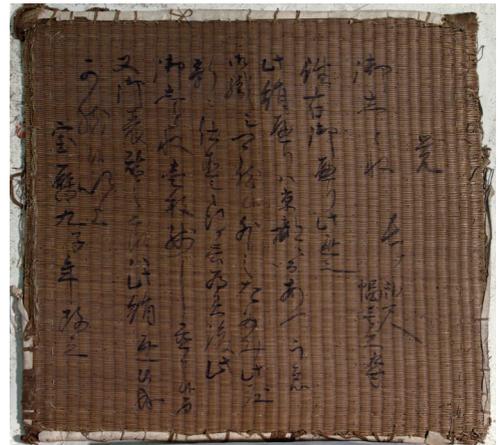


若宮神輿



十禅師神輿

九曜文網代張黒漆神輿（兵主神社）



附 しとね（畳表）

兵主神社本殿 附 獅子口（南面）



本殿棟積瓦



鯨